

投 光 器

国労東海貨物協議会
2018年3月3日
発行責任者 鈴木和巳

春闘勝利・ベア獲得貨物東海支社前行動を開催！

3月2日（金）12時10分より国労東海本部主催「春闘勝利・ベア獲得貨物東海支社前行動」が開催され、貨物組合員及び名古屋、静岡、新幹線各地方本部の旅客組合員を含め総勢50人以上が結集しました。

はじめに、主催者である東海本部長岡委員長から挨拶を受け、全国貨物協議会、名古屋地方本部、静岡地方本部、新幹線地方本部の各代表者から連帯の挨拶を受けました。

東海貨物協議会鈴木議長からは、「国労本部及び東海本部の春闘申し入れ」「国内の春闘情勢」「貨物会社の実態と社員の現状」「55歳以上の労働実態と賃金」「運転職場における要員不足問題」「駅・検修・保全職場における技術継承問題」「青年労働者の実態」等について挨拶され、「19年連続ベアゼロ



阻止、ベア満額獲得を目指し、貨物社員が安全・安心して働き続けられる環境や労働条件の改善に向け闘う決意が表明されました。

続いて、九州貨物協議会からの激励メッセージが披露され、東海貨物協議会小川副議長の発声でシュプレヒコールを行い、JR貨物東海支社に対し労働者の怒りを訴えました。最後に東海本部上野書記長の力強い「団結ガンバロー」で貨物東海支社前行動を終了しました。

午後からは名古屋国鉄会館6階会議室に場所を移し、貨物・旅客組合員22名が結集する中、「2018春闘学習会」が開催されました。はじめに、鈴木議長から「貨物会社を巡る情勢、18春闘の背景と闘い、ストライキ要請と体制の確立、各地方での宣伝行動、ダイヤ改正関係、組織強化・拡大」について挨拶され、全国貨物協議会眞田議長からは「貨物会社の状況、春闘交渉の経過や行動、春闘個人署名、各系統の要員不足問題、貨物会社の体力、貨物労の動向」挨拶されました。

18春闘学習会は、引き続き全貨協眞田議長を講師に『貨物会社の現状と新人事賃金制度について』と題し、「JR発足30年の現状と課題」「貨物会社の現状と社員の实態」「JR貨物グループ中期経営計画2021の特徴と問題点」「今後の経営課題」「我々に求められる今後の取り組みと課題」、新人事賃金制度導入については「経営統括本部総務部人事制度改正推進室の新設」「予想される問題点」「現状にある背景」「国労としてどう対応していくのか」について講義され、続いて東海本部上野書記長を講師に『労働者にとって賃金とは？』と題し、「そもそも賃金とは？」「退職金や期末手当は賃金？」「賃金は生計費原則」「同一労働・同一賃金って何？」「もう一度賃金を見直そう」について講義を受けました。

新人事賃金制度を含めた「中期経営計画2021」は誰が一番得をする施策なのかを常に監視していかなければならないことや、「同一労働・同一賃金」が経営者側と労働者側との思惑に乖離があること、鉄道部門の黒字化が達成し経常利益が過去最高の88億円を確保したにも関わらず、憲法で保障された「健康で文化的な最低限度の生活を営む」ことができる賃金なのかを改めて考えさせられる学習会となりました。



貨物会社の内部留保について、国労が試算した額は昨年より約90億円多い、約990億円にも達し、「12,000円」のベアは僅か1.45%を切り崩せば実現可能であり体力は十分にあります。貨物労働者の生活を守るため客・貨一体となり、ベア満額獲得に向け闘うことを全体で確認しました。

学習会終了後の懇親会では、職場の問題や運動に対する議論が白熱し、親交と団結を深める中で労働条件と更なる組織拡大に向け奮闘することを決意しました。